

106 世界遺産のバックステージ

一度は訪れてみたい世界遺産。現在、日本には 20 の文化遺産がありますが、人々の暮らしの中で生まれ、受け継がれ、様々な困難の中で保存の努力がされています。観光客目線で歴史的建造物や文化的景観を楽しむのも良いですが、その舞台裏の地域の取り組み（バックステージ）について解説します。そこは文化財保護の最先端というだけでなく、歴史・文化をいかすまちづくりのヒントが隠されています。

講 師

麻生 美希 准教授

専 門 分 野

都市計画

現在の研究テーマ

文化的景観の保全

担 当 科 目

都市計画学、景観デザイン論

出 講 可 能 日

金・土曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

107 共生社会の実現に必要なユニバーサルデザインの理念に基づく製品・サービス

本講義では、自身が開発や実用化に携わった共用品・共用サービスに加えて、特別なニーズを有する利用者のために製品化した福祉用具の研究事例を紹介します。こうした研究の推進には、利用者や関係者とのコラボレーションと学生の皆さんの共感力や日々の生活の中での気づきが大切になります。また、研究者の御仕着せのモノづくりやサービスでは普及していかないと考えられています。共生社会の実現に向けて研究が果たす役割について考えていきます。

講 師

土井 幸輝 教授

専 門 分 野

福祉工学、人間工学、
感覚代行

現在の研究テーマ

共用品やサービスの開発及び評価

担 当 科 目

くらしの機器学、ユニバーサルデザイン論

出 講 可 能 日

金曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

108 日本の洋装事始め

私たちは日常生活の中で当たり前洋服を身につけています。着物で生活していた日本において洋服が受け入れられ始めたのは、明治維新の頃。それから 150 年ほど経った現在、私たちの衣生活は洋服中心に大きく変化しました。当時の写真やイラストを紹介しながら、日本の洋装化と洋服作りの始まりについて講義し、衣服の持つ力について考えます。

講 師

藤本 純子 教授

専 門 分 野

被服造形、被服デザイン

現在の研究テーマ

20 世紀初頭の衣服デザインと構成

担 当 科 目

被服造形学、被服造形実習

出 講 可 能 日

火曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン、パソコン

109 いまなぜ、サステナブルファッションか？

いまや生活のあらゆる局面で意識されているサステナビリティ（持続可能性）ですが、ファッションの分野でも社会全体で取り組む問題として認識されつつあります。この講義では、わたしたちの衣生活を振り返って現状を見直し、問題解決に向けてヒントになるような新しい活動をご紹介します。みなさんとともに、“人と環境にやさしいファッション”のこれからの可能性について考えてみたいと思います。

講 師

平光 睦子 教授

専 門 分 野

デザイン史、服飾文化史

現在の研究テーマ

ファッション産業・テキスタイル産業の近代史

担 当 科 目

衣生活学、服飾デザイン論

出 講 可 能 日

春学期：火・土曜日

秋学期：月・土曜日

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン、パソコン

110 “いのち”の豊かさとは～現代社会からの問いかけ～

21 世紀を迎えた現代社会は「進歩」という言葉の下、様々な領域で不可能な事柄を可能な事柄へ転じてきました。その事実は私たちの生命（いのち）を豊かにしたのでしょいか？！現代社会の生命領域の具体的事象（臓器移植など）に向き合いながら、“いのち”観の構築に挑戦します。その際、宗教文化（キリスト教文化）にも若干言及する予定です。いのちの意義をその存在自体ではなく、関係性に注目しつつ探究します。

講 師

小崎 眞 教授

専 門 分 野

歴史神学（キリスト教教会史等）、
実践神学（宣教論）、宗教倫理

現在の研究テーマ

日本社会におけるキリスト教、
生活に根ざした倫理学

担 当 科 目

応用演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文

出 講 可 能 日

月・土曜日

研究テーマの詳細

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン



111 伝統工芸の今、デザイナーに出来ること

日本は高度経済成長を経て先進国としての豊かな生活を得た一方で、急激な西洋化に伴い和文化は低迷の一途を辿った。中でも、江戸時代に日本人にとって最も馴染みがある楽器として栄えた「三味線」は、現在存続が危ぶまれる状況にある。本講義では、企業で大量生産・大量消費を基本としたプロダクトデザイナーを務めた教員が、なぜ日本の伝統工芸である和楽器に興味を持ち、デザインしたいと考えるようになったのかを紹介する中で、デザイナーの社会的役割を解き明かしていく。

講 師

村井 陽平 准教授

専 門 分 野

プロダクトデザイン、
クラフトデザイン

現在の研究テーマ

プロダクトデザイン実務、
伝統工芸のデザイン研究

担 当 科 目

生活プロダクトデザイン論、感性デザイン論

出 講 可 能 日

火曜日

研究テーマの詳細

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン



112 暮らしの中の「あかり」デザイン

すまいの中には様々な「あかり」が存在し、時代とともに変化しています。本講義では、インテリア空間における照明の役割や歴史について概説し、近年急速に普及が進む LED ランプの特性について、従来光源との違いや、モノの色の見えとの関係から解説します。また、良質な光を空間にもたらす北欧の照明デザインを紹介し、照明器具のデザインや光の質の側面から、インテリア空間における人と「あかり」の関係について考えます。

講 師

奥田 紫乃 教授

専 門 分 野

居住環境、光・色彩環境評価、
視覚心理・生理

現在の研究テーマ

化粧行為に適した光環境、美術鑑賞のための照明、
内装材のテクスチャ評価など

担 当 科 目

居住環境学、くらしの色彩学

出 講 可 能 日

月・金曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

113 持続可能なくらしに向けて

現在、SDGsをはじめ「持続可能な」という言葉がところどころに使われています。では、実際にわたしたちのくらしのなかで持続可能なこと、持続可能のために行われていることにはどのようなことがあるのでしょうか？地域の社会や環境と、わたしたちの生活との関係を確認しながら、持続可能なくらしについて考えていきます。

講 師

齋藤 朱未 教授

専 門 分 野

農村計画

現在の研究テーマ

農村コミュニティ、農村振興

担 当 科 目

地域と協働、環境教育論

出 講 可 能 日

春学期：月・金曜日

秋学期：金曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

114 子ども部屋を考える

現代の住まいでは当たり前存在となっている子ども部屋。子ども部屋が日本の住まいに登場したのは大正時代に遡りますが、専用子ども部屋が一般的となったのは実はわりと最近のことなのです。子ども部屋はどのようにして生まれ使われてきたのでしょうか。子ども部屋の成り立ちと変遷、現代の国内外の子ども部屋事情、居心地よく住むための部屋づくりの秘訣を資料や実例をもとに解説します。

講 師

塚田 由佳里 准教授

専 門 分 野

住居学、建築計画、
インテリアデザイン

現在の研究テーマ

こどもの住環境、北欧のくらしと住環境

担 当 科 目

インテリアデザイン論、住居デザイン実習

出 講 可 能 日

月・土曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン